

令和4年度 事業計画（案）

1. 事業実施の方針

新型コロナウイルスの感染拡大防止をふまえ、実地でのアート展はすべて中止。利用者の打ち出し方のチャンスとして恒例のエキスポはネットでの開催とする。利用者の個性確立の機会ととらえ実施する。つまり方針は個性確立とする。開催概要は添付のごとく

第12回 国際チャレンジドアートエキスポインジャパン2022 開催概要（案）

開催目的：障がい者がつくる芸術品（オンリーワンアート）を世に紹介し、この事業の原点となった“わんぱく学園”の活動の歴史を通じて真の福祉のあるべき姿を考える。

テーマ：真の福祉とは～

時期：2022年12月（予定）

主催：特定非営利活動法人サポートセンターどりーむ、わんぱく学園

共催：島根県商工会議所連合会、一般社団法人新極美術協会、わんぱくデザイン研究所

協賛：一般財団法人ごうぎん財団

特別協賛：出雲大社、

場所：インターネット上での開催

展示：国内&国外 20ヵ国 島根県、鳥取県、神奈川県、兵庫県、東京都、オランダなど
凸版印刷、障がい者アート協会

20人の個展（どりーむに通うアーティストの力作をネット上で紹介、絵本 陶器、工芸品等計700点

協賛出展：ごうぎんチャレンジドまつえ

- ① 個性確立の大事な機会ととらえる。そこから各自を売り出すかたちをとりたい。
- ② 軽作業の安定的な受注を目指す。アイ・ねっと(株)が運営する太陽光発電所に植えたハーブの管理を強化する。園芸好きの新人の利用者の活用を目指し、効率を上げたい。
- ③ 絵本「ぼくお父さん」の第2弾を企画と新たな絵本スタイルをエキスポで提案したい。

1) 本部事業

エキスポを門戸開放の絶好の好機ととらえ、契約アーティストを含み20名紹介
将来的には世界から利用者を募りたい。2025年には世界的規模での事業に展開したい。
あわせて継続した会員確保につなげたい。

2) わんぱく学園事業

新型コロナウイルス（Covid-19）感染拡大の状況を踏まえ、参加者の心のよりどころに
繋がるよう活動をしていきたい。

3) 就労継続B型事業（わんぱく大使館）

Covid-19感染拡大防止に努めたい。SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）
やホームページを活用した在籍アーティストの作品PR、アーティストの作品を二次利用
した商品の開発販売することから、インターネット販売の収益向上につなげたい。
凸版印刷（株）や（一社）障がい者アート協会と協力しながら、アートへの二次利用を
含めたアート収益の向上につなげたい。

ハープ事業をはじめ、受注先への配慮に感謝しながら、引き続き安定した協力体制を
構築していきたい。

4) 相談支援事業 相談支援専門員の資質向上をはかりたい。職員の資格取得者をふくめ、
相談支援専門員の確保ができるよう努めていきたい。

5) 共同生活支援事業（わんぱくハウス）

Covid-19感染拡大防止に努め、施設利用者が安心安全に生活できるよう、職員の人財
育成に努めたい。あわせて施設利用者の確保に繋げていきたい。

6) その他、新たな商品開発、アイデアの創出により、ビジネスの活性化をめざしたい。

2、事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係わる事業

事業名	事業内容	実施事業の日時、場所 従事者の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (単位：千円)
本部	本部運営	通年	36名	605
就労継続支援B 型事業所 わんぱく大使館	アート展開催 WEB	第13回国際チャレンジド アートエキスポ R5年10月 (実地での展示、 WEBでの開催)	絵画、陶芸製作者 24名 24名	113
	障がい者の就労 支援	毎週月曜日～金曜日 9時～16時 わんぱく大使館 5名	わんぱく大使館 利用者 24名	36,922
計画相談支援	障がい者の計画 相談支援	毎週月曜日～金曜日 10時～16時 相談支援事業所わんぱく 2名	相談支援事業所 わんぱく 利用者 10名	2,763
共同生活支援 事業	障がい者の共同 生活支援	年未年始以外 わんぱくハウス 2名	わんぱくハウス 利用者 6名	10,344
わんぱく学園 事業	障がい者、健常 者一緒の戸外活 動	毎週日曜日午前中、アト リエ「おちらと」 2名	障がい者 延べ 50名	286

(2) その他の事業 今年度は実施しない。